

# 経済・金融フラッシュ

No.07-170 2008/03/10

## 2月マネー関連～貸出緩やかな増加、ただし先行き下振れリスクは高い

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 矢嶋 康次

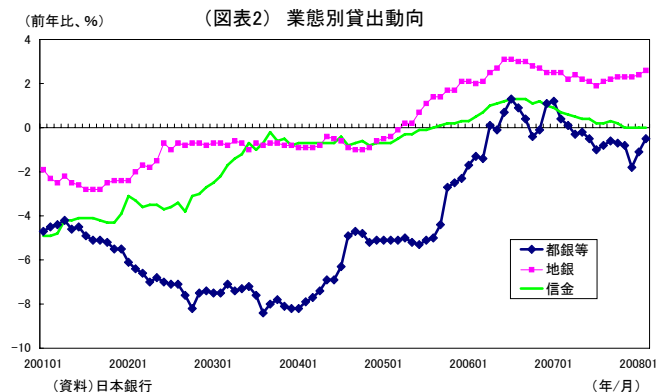
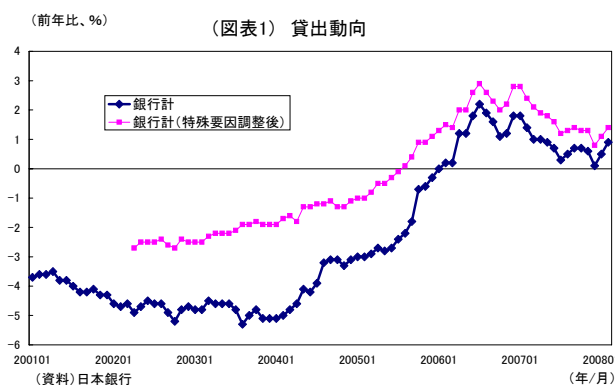
TEL:03-3512-1837 E-mail:yyajima@nli-research.co.jp

### 1. 貸出動向：緩やかな増加、ただし先行き下振れリスクは高い

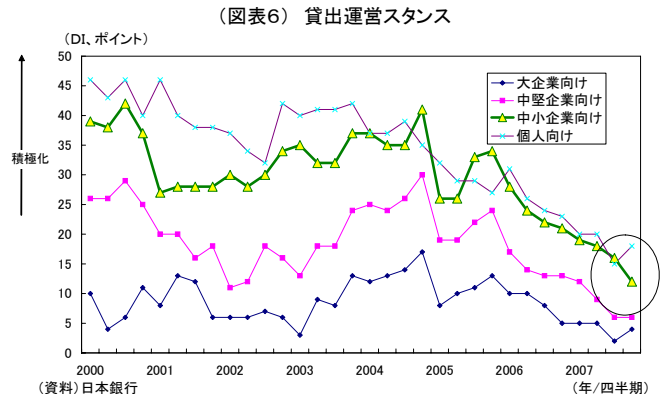
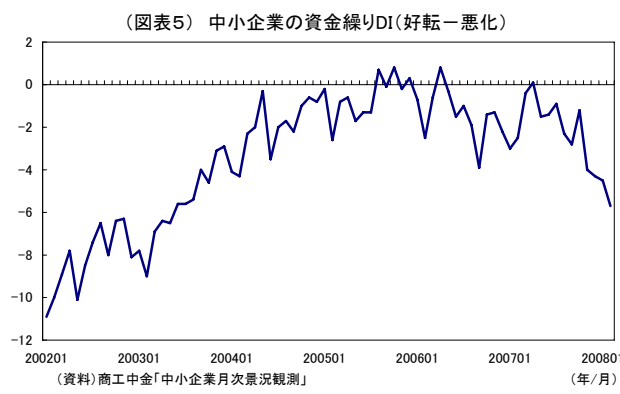
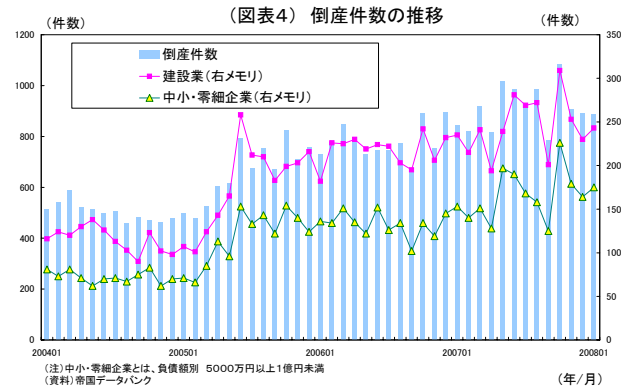
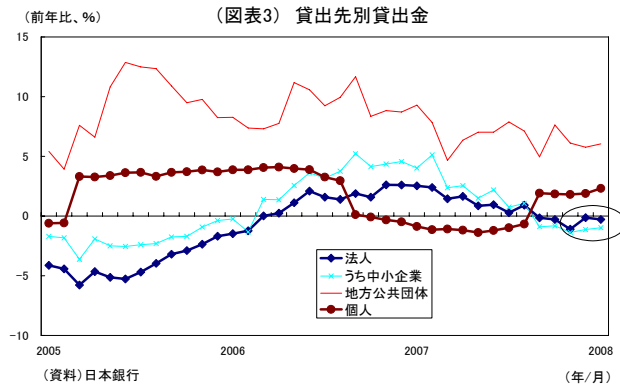
日本銀行が3月10日に公表した貸出・資金吸収動向等によると、2月の総貸出（平残、銀行・信金計）は前年比0.8%（25カ月連続のプラス）と緩やかな増加を続けている。2月についてはM&A関係の貸出や原材料価格高騰による運転資金需要が高まり、先月に比べて貸出の伸びが高まったようだ（図表1、2）。

ただし、先行きについては下振れリスクが高い。貸出先別貸出金（2/29日公表、1月分）を見ると、中小企業向けを中心に法人向けのマイナス傾向が顕著になってきている（図表3）<sup>1</sup>。原材料価格の高騰に建築基準法・貸金業法の法改正に伴う影響なども重なり、倒産件数も零細・中小企業を中心に増加傾向が続いている（図表4）。中小企業の資金繰りも悪化している中、サーベイ調査にでてるように融資姿勢の厳格化の動きがいつそう強まる可能性が高い（図表5、6）。クレジットクランチといった状況に陥るリスクも高い。

なお建築基準法の影響で個人向け住宅ローンの減少も懸念されるが、現段階まで影響はでていないようだ。

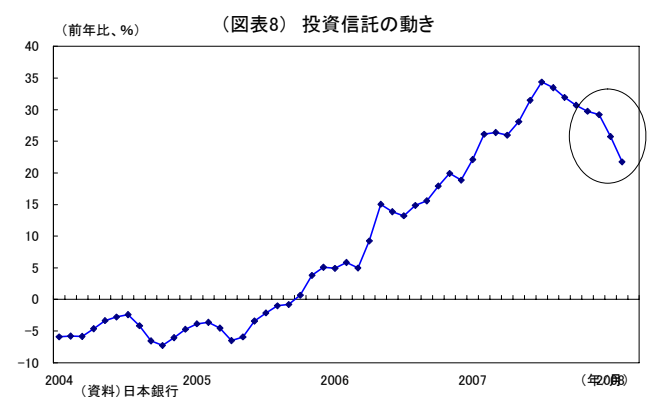
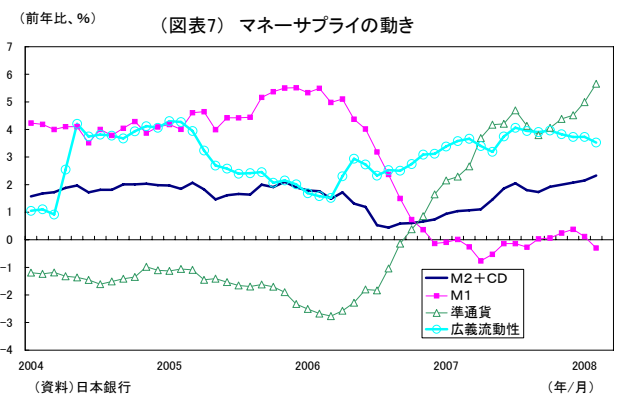


<sup>1</sup> 07年12月分から統計の変更が行われている



## 2. マネー：投信を通じ広義流動性からマネーサプライへシフト

マネーサプライ統計 (3/10 日公表) によれば、2月の M2+CD は前年比 2.3%、広義流動性は 3.5% となった。(図表 7)。世界的に株安が続いていることで、投資信託から安全資産である定期預金などの準通貨へのシフトが継続。投資信託の伸び率は、8月から7カ月連続低下、一方準通貨は5ヶ月連続伸び率増加となっている (図表 8)。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)